

平成29年度 第2回高梁市医療計画検討委員会議事概要

日 時：平成29年11月20日（月）

19：00～20：45

場 所：高梁市役所3階大会議室1

出席者：委員14名、アドバイザー1名、事務局6名

1 開 会

2 会長あいさつ

医療計画の策定について、第1回目の検討委員会で事務局から説明いただいたアンケート調査に関して、市民、医療機関、医療従事者からご協力をいただき、結果の集約が出来たので、本日も報告する。

調査結果からは、市民の不安内容、年代や地域別の特徴が明らかになっている。さらに、医療提供体制の現状、医療従事者や関連専門職の考え方が明らかになった。

本日は、調査結果のポイントや高梁市の医療に関する課題の概観について、事務局から説明いただく。この課題について、どう施策に繋げていくか、忌憚のないご意見を賜り、実のある会議にしたいと考えているので、よろしく頼む。

3 協 議

(1) 高梁市の地域医療に関するアンケート調査の実施結果について

資料1、2により事務局から説明

—質疑なし—

※資料1を一部訂正。(修正後の資料を公表する。)

(2) 高梁市の医療に関する課題の整理(案)について

資料3により事務局から説明

会 長：事務局から説明のあった、アンケート調査結果から見えた8つの課題について各委員からご意見いただきたい。1つ目の課題である「患者が市外に流出している現状」について何かご意見はないか。

委 員：データをみて、非常に多くの患者さんが市外へ流出している現状に驚いている。しかし、医師が楽をしている訳ではない。こういった状況だからもっと患者を受けべきだと言いたいところではあるが、国の働き方改革と逆行した形になる。職員に対してもっと働く時間を緩めるべきか、もっと頑張ってもらうべきか悩んでいるところである。

委 員：私も同感である。市内で受療いただくのが望ましいと考えているが、職員の高齢化等で幅広く対応していくのは現状では困難と感じている。

委 員：医師もだが、看護師の不足も懸念している。精神科の患者さんがどれだけ市外へ流出しているかは把握していないが、精神科の医療圏は高梁、新見、総社の一部となっている。デー

夕はないが、厳しい現状であることは間違いない。

委員：市外へ流出している20%が多いか少ないかは考え次第。80%の方が市内へかかっているという事を評価しても良いと考えている。市内の2次救急は、対応できる時間、施設は限られている。その中で、市民の方に満足していただくには、お互いの病院が連携し、直接医師同士が連絡し合い、患者さんに対応する仕組みが大切であると感じている。回復期に関しては、本人は市内に帰りたくても、家族の都合で県南にかかっている状況も勘案する必要がある。各病院、地域の包括ケア病棟を作り、地域で受け入れる体制は作っているがそれをしっかりPRできていないと思う。

委員：地域性を考えると、高齢者が多い地域では、若者は県南に住んでいる。地域で洗濯物を取り込むなど、回復期に地域に帰ってきやすい体制作りが大切だと感じている。地域性を考えながら病院の運営を考えれば、市内の病院の利用率も上がると思う。将来的には患者数が減ることはわかっているので、様々な患者さんに対応できる仕組みを作れば良いと考えている。

委員：医師はしっかり働いている。そうした中で、市外への流出はある意味止むを得ないところもある。しかし、これで良いという事ではない。これで良かったら、これから作る医療計画は意味のないものになる。今回の報告は、リザルトを検証する一つのツールになると思う。

会長：次に2つ目の課題「中山間地域での高齢期の日常的な医療アクセスの不安」についてご意見をいただきたい。

—特になし—

会長：次に3つ目の課題「市街地での出産・子育て期の医療アクセスの不安」についてご意見をいただきたい。

委員：市内で分娩出来なくなり、市内に分娩施設を設置して欲しいという声を聞く。分娩施設を設置するということは、医師を含め、常勤、非常勤で10名近くが必要となる。おそらく数億の費用が必要となり、現実的ではない。市でもサポート体制の充実を図っているが、十分でない。次に考えられる手立ては、正常分娩の方が市内で産めるような立派な助産院を作り、産科の先生とタイアップする事は高梁市でも考えれる方法だと思う。皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻科は、市内で受診出来ない日がある。耳鼻科は開業されている先生もおられ、アクセスとしてしようと思えば出来る。各診療科の先生に来ていただくよう過去に働きかけたこともあったが、現状だと今の状態で良いのではないかと感じている。最大限の努力をして今の状況があるということを市民の方に理解していただくことが大事だと思う。

委員：産科に関して、新たな施設をどうするか考えながら、同時に現状をどうしていくのが良いか考える必要がある。高梁市には優秀な看護師が多くいることをもっとアピールするべきだと思う。全国的にもネウボラのリーダーになれるような方がこの地元におられる。市内に産科の先生がおられるし、小児科の先生が4名いるので、現状で上手にサポート出来る体制を形成していくことが大切。これは市（健康づくり課）が中心となってやるべきことだろうと思っている。何が足りないかという、そういった良いシステムを作っても、市民の方に伝わっていないことが足りないと思う。そこを上手にアピールしていき、高梁市は安全なんだと思っただけのようなシステムを作るべきだ。その中で、市民の方から助産院が必要だという声が多く上がるなら作っていけば良い。産科がこのままないということを前提に考えながら、あったらどうなのかを同時に考えていく事が大切である。

会長：次に4つ目の課題「年代・地域に共通する地域医療、救急医療等の不安」についてご意見をいただきたい。

委員：中山間地域では病院まで行く手段がないといった現状がある。バスの運行が一日数便しかないため、バスの時間に間に合うように受診を考えないといけない。急に病院へ行こうと思ってもタクシーしかない。昔（20年、30年前）は、往診してくださる先生が非常に多かった。各地域に診療所もあるが、毎日開いている訳ではないので、開いている時にしか行けないという不安を市民は抱えている。地域に密着した医療を進めるべきだ。最近では、がん患者で在宅療養を希望される方も多し。訪問看護師も来てくれるが、結局は病院へ行かなくては行けないので、待つ時間も長し、病院へ通う体力も無いという不安も多いと思う。

委員：本病院は今月からケアマネジャー会議に主治医も参加している。医者は病院に張り付いている現状の中、NP（診療看護師）が今年から来てくれている。その方が中心に地域に密着した保健師、看護師を育成し、アクセスの問題を考えていくことが大事。美作市でもコミュニティナースの取り組み事例があるので、そういった所も参考にしながら進めていく必要があると考えている。医者が足りない所をいかに多職種でカバーしていくかも方策の一つ。

委員：地域で在宅医療を希望されている方が、病院の主治医と在宅医と二本立てで考えてもらいたい。そういった事が市民に浸透していけば在宅医療が進んでいくと思う。市内の中でも地域で在宅医療のニーズが異なる。近隣の市に在宅要望があり、訪問することも多くある。

委員：成羽病院の改革の中にもあるように、へき地の診療所でも看護師を常時置き、その方が住民とのコミュニケーション役を担い、医師とは、遠隔診療で繋いでいくというやり方を構築していきたいと考えている。将来的に遠隔診療はICTツールを患者さんの家において、医師と患者さんの間に看護師の方に入ってもらい、看護師の力で解決できるものであれば、看護師で対応いただくなど、プライマリーケア特定看護師のような方を大学とタイアップして作っていくというように前向きに考えていくべき。私たちが出来ることを計画立てする必要があるし、それを実行していくこと、それがどういう変化をもたらしているのかを把握することがこの計画だと思う。

委員：新見の病院ではiPadを用いて新見の遠隔医療を進めている。具体的にiPadを用いて、今後、訪問リハであるとか、遠隔診療は進んでいくのか。

委員：テレビ会議にてリアルタイムの会議が行えるようになった。県北と県南の退院カンファレンスをスタッフが動けば半日かかるものを即時に行えるようになった。晴れやかネットではそういったことが行える機能はないが、「やまぼうし」にテレビ機能をつけて、iPadで運用するなど検討してみてはどうか。県が岡山大学へ委託して、遠隔テレビ会議を検討しているという情報もある。遠隔テレビ会議が有効であるということで検討が進んでいるものと感じている。

委員：NP（診療看護師）が現場でもっともっと活躍いただく事が大切だ。医師の手助けではなく、ある程度、判断して、処方するなど権限移譲を進めていくべきだと思う。医師はこれだけの仕事、看護師はこれだけの仕事などある程度、業務を絞っていかないと体がいくつあっても足りない。医師の業務に多職種が踏み込んでいくような国の施策になって欲しい。そうならないと医療の現場は回らなくなる。

会長：次に5つ目の課題「医療従事者の高齢化、患者数の減少による医療機関の経営不安」、6つ目の課題「医療従事者の高齢化、新規人材の不足による医療現場の疲弊」、7つ目の課題「経

営不安やスタッフの疲弊による、サービス維持・発展の制約」、8つ目の課題「地域包括ケア体制構築に向けた関連分野との連携が依然不十分」についてまとめてご意見いただきたい。

委員：計画策定に向け、4つの基本方針を定めているが、2つ目の柱の「医療従事者が誇りを持って働ける、持続可能な地域医療」が特に医師会が力を入れないといけないテーマだと思う。高梁地域の在宅医療推進に向けた体制整備事業（県事業）として、平成28年度から3か年計画で実施している。看護職の在宅医療スキルアップと人材育成、訪問看護ステーションの連携を目的に進めている。病院の幹部にあたる看護師を対象にしたリーダー研修を考えている。1つの病院ではなく、市内の4病院共同で作っていき、地域に新たに若い看護師が来た時に、安心して仕事を続けていけると、堂々と言えるよう育てていきたい。この事業で看護師の繋がりが少しずつ広がっている。この計画を3年で終わらせるのはもったいないと感じている。行政で予算化して、医師会、看護協会、病院協会と一緒に進められたらと思う。若い看護師がこの地で働いても大丈夫ですよという教育システムを示すことは大事だと思う。この計画で協議していただければと思う。

委員：看護師だけでなく、医師にも研修が必要。私も専門医で長くやってきて、当直に当たることもあるが、どんな疾患で患者さんが来るのか日々どきどきしながら当直をしている。岡山大学がサテライト事業を実施しているが、医師もそういった中で刺激され、総合診療など、高梁市にいる常勤医が地域の魅力を出すことで、若い先生に来ていただく環境を作る必要がある。やはり魅力作りが大切である。そういったものを確立していくことが大切であり、実施していきたいと考えている。

会長：大学は地域貢献を掲げており、学生の期間に各医療機関で研修させていただきたいと考えているので、よろしく頼む。

委員：住民の思いと医療側の思いは違う。産科が必要だと言いながら、市内で検診はできる、助産師の相談体制は整っている。正常分娩は県南を紹介出来ているが、急なお産に対応出来ない。では、急なお産がどれだけの需要があるのかを把握するべき。皮膚科、耳鼻科は待てる診療科である。待てる疾患がそこまで必要か。がんも急性期の疾患ではないということからも待てる疾患ではないかと思ってしまう。何が出来て、何が出来ていないのかをきちんと伝えていく努力が必要だと改めて感じた。市民に漠然とした不安があるので、時間はかかるが、一つずつしっかり説明していくことが大事。受療動向に関して市内希望だが市外へ行った患者さんより、なんとなく県南に行っている患者さんへの対応が必要だと思う。労働環境において、薬剤師、看護師、准看護師、作業療法士は、退職を検討しており、早急に改善して欲しいという方がいることに問題意識を感じている。あなたの成長を願っている、あなたが学びたかったら学ぶ環境は整えるという事は、職員を大切にしているというメッセージにもなる。研修の機会が少ないということであれば、地元で研修の機会を増やす工夫を行政として考えていきたいと思う。

委員：救急に関して、現状では疲弊している現状の中で、システムをもう一回考え直す必要がある。この場合は、そういった所を考える場にしてほしい。4病院と保健所では会議を定期的に行っている。その中からも新しい解決策が生まれると思っている。救急の問題にまじめに取り組んだ時に、市や県が相当の金額、予算措置出来るのかが気がかりな所。やろうと思っても人手とお金の面から現状維持となっている。その事が、現状を変えられない最大の理由だと感じている。

4 その他

アドバイザー：細部まで見てれないが、地域医療の実態がよくわかる報告書が出来ていると感じた。住民の思いと医療の思いは違う。市民にどうやって医療の実態を知らせるかは一つのポイント。市民ががんになり県南の病院で受療されること自体は問題ではなく、むしろ、地元に戻った時にどういった体制を作るかが大事。地域医療は地域介護と密接に関わり合っている。一人暮らし、老老世帯が多ければ施設に頼ることが多い。この地域でどうなっているのか気になった。多職種連携、職種間連携、地域の魅力づくりは一つのポイント。個人個人では無理でもシステムをどうやって作り出すかで知恵を出す必要があると思った。

事務局：資料4として、フリーアンサー一覧を配布している。市民の方からのご意見、ご要望を取りまとめているので、お目通しをお願いしたい。

当初のスケジュールでは、計画策定までに検討委員会の開催を3回としていたが、パブリックコメント実施前の平成30年3月ごろに追加で1回開催したいと考えている。計画策定まで4回の検討委員会を開催したいと考えているので、よろしく頼む。

5 閉会（仲田副会長）

熱心なご討議に感謝する。すばらしいアンケート報告書が出た。これをもとに高梁市の医療構想が進んでいけばと考えている。これを現実のものとするためには、私たちの地道な努力が必要。医療、介護に関わらず人がいない。身内に医療介護に興味がある方がおられたら声かけして欲しい。若い人が外に出てしまう大きな要因は大人がここに住んでほしいと思っていないからだ。小児科医の経験から私たち大人の意見を子ども達はよく聞いてくれる。大人が意識改革してこの地を生き残れる場所にしないといけない。日々の言動でも実行し、子ども達の意識を変えることで、この地域の未来は変わってくると思う。この地域が新しい住みやすい高梁市が出来ますよう、お力添えをいただきたい。

本日はありがとうございました。